

## 小児気管支喘息の生活指導指針

|       |                      |   |   |   |   |
|-------|----------------------|---|---|---|---|
| 分担研究者 | 京都大学小児科              | 三 | 河 | 春 | 樹 |
| 研究協力者 | 北海道大学小児科             | 松 | 本 | 脩 | 三 |
|       | 国立相模原病院アレルギー科        | 三 | 嶋 |   | 健 |
|       | 東京大学小児科              | 早 | 川 |   | 浩 |
|       | 国立小児病院アレルギー科         | 飯 | 倉 | 洋 | 治 |
|       | 埼玉医大小児科              | 赤 | 坂 |   | 徹 |
|       | 同愛記念病院小児科            | 馬 | 場 |   | 実 |
|       | 九段坂病院                | 島 | 貫 | 金 | 男 |
|       | 神奈川県立こども医療センターアレルギー科 | 寺 | 道 | 由 | 晃 |
|       | 国立療養所南福岡病院小児呼吸器科     | 西 | 間 | 三 | 馨 |
|       | 星薬科大学薬理              | 柳 | 浦 | 才 | 三 |

### 〔研究目的〕

気管支喘息の発症素因は、理論的には、遺伝要因に基づくところがたとえ大とされる。しかし実地臨床の場でみる発作の発現には抗原接触のパターン、患児をとりまく社会的、家庭的環境諸因子が多大の関与をしめし、その治癒機転にも成長、発達、薬剤の使用方式、一般的な身体鍛練の関係が重要な鍵をなしている。

そこで我々は気管支喘息患児の日常指導のための適切な指針を作成するためこれらの諸点に対する具体的な問題点を発掘し、その解決策を提出しようと志した。

### 〔研究計画〕

共通テーマとして班員、研究協力者が所属する11施設の受診者について気管支喘息の発症と緩解に関する諸要因についてアンケート調査を行った。また各施設の各個研究として 1)生活区域の調整、2)食事指導、3)運動ならびに鍛練、4)薬剤使用の注意項目、5)成長と喘息、6)心理指導、7)遺伝指導に関わる諸問題をテーマとする研究を行った。

### 〔研究成果〕

気管支喘息の長期予後と治癒機転に関わる諸要因が明らかとなった(共通テーマ)。気管支喘息の難治化要因について年令素因(馬場)、ステロイド依存化要因(西間)の検討から指導要項に問題提起がなされた。なお難治化要因の一つとしてIgG抗体の検出法(三河)にも考案がなされた。薬剤治療についての配慮に関してはその評価法(早川)、汎用される減感作療法(島貫)、キサンチン療法(飯倉)の検討から注意事項が明らかにされた。患児の家庭内、社会的な心理指導ないし心理分析について(赤坂)一定の術式が提起された。根本的な体質素因については自律神経(柳浦、寺道)、膜受容体(三島)、抗体産生(松本)らの多面的な分析がなされ、その解決に対し今後の展望がのべられた。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



〔研究目的〕

気管支喘息の発症素因は、理論的には、遺伝要因に基づくところが大とされる。しかし実地臨床の場でみる発作の発現には抗原接触のパターン、患児をとりまく社会的、家庭的環境諸因子が多大の関与をしめし、その治癒機転にも成長、発達、薬剤の使用方式、一般的な身体鍛練の関係が重要な鍵をなしている。

そこで我々は気管支喘息患児の日常指導のための適切な指針を作成するためこれらの諸点に対する具体的な問題点を発掘し、その解決策を提出しようと志した。